

中小企業景況調査報告書

令和2年4～6月期実績

令和2年7～9月期見通し






始良市商工会

(令和2年7月発行)

この調査は、始良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。

























この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	--	--

1. 調査対象期間 令和2年4～6月期を対象とし、調査時点は令和2年6月1日とした。
令和2年7～9月期は予測値となる。
2. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
3. 調査対象商工会 始良市商工会
4. 回答企業 対象企業 30企業 (※始良市30企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数と理解下さい。)
製造業：7企業 建設業：7企業 小売業：8企業 サービス業：8企業

県内産業別業況DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
対前年 同月比	31年 4月～6月期		▲8.1		▲7.2		▲38.4		9.6
	1年 7月～9月期		▲22.5		▲3.6		▲41.7		▲21.6
	1年 10月～12月期		▲13.1		3.4		▲41.2		▲9.6
	2年 1月～3月期		▲25.6		▲20.7		▲38.7		▲22.4
	2年 4月～6月期		▲73.7		▲34.5		▲69.1		▲74.0
	来期見通し(7～9月期)		▲64.9		▲46.4		▲66.0		▲69.3

総合(業況)

前年同期(平成31年4月～6月期)と比較した今期(令和2年4月～6月期)の業況は、製造業▲73.7(前年同期 65.6 ポイント悪化)、建設業▲34.5(前年同期比 27.3 ポイント悪化)、小売業▲69.1(前年同期比 30.7 ポイント悪化)、サービス業▲74.0(前年同期 64.4 ポイント悪化)となった。新型コロナウイルス感染防止対策により、飲食業・観光業・宿泊業を中心に休業を余儀なくされ、学校も休校し、前年同期と比較して、全業種大幅な悪化となった。感染が拡大しつつあった前期(令和2年1月～3月期)と比較すると、外出自粛がなされたことでさらに悪化となり、売り上げが0円となったところも多く、資金繰りも非常に厳しくなった。なお、来期(令和2年7月～9月期)

























の見通し（DI）としては、今期と比較すると、建設業を除き、定額給付金や各市町村のプレミアム商品券等の助成で、やや回復する見込みであるものの、国や県の持続化給付金や事業継続支援金等で経営破綻を防げるのかどうか、中小・小規模事業者にとっては、終息するまで正念場が続くと思われる。前年同期と比較して、製造業と小売が改善したものの、サービス業の悪化が目立っている。

来期（令和元年7月～9月期）の見通しとしては、今期と比較すると、製造業、建設業では変わらないものも、小売業、サービス業は悪化の見通しとなり、依然として厳しい状況が予想される。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：食料品(2)、窯業(1)、衣類(1)、家具(1)、印刷(1)、ガラス製品(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
31年 4月～6月期		▲14.3		14.3		14.3		0.0
1年 7月～9月期		0.0		0.0		0.0		0.0
1年 10月～12月期		▲14.3		14.3		14.3		14.3
2年 1月～3月期		▲14.3		14.3		0.0		14.3
2年 4月～6月期		▲57.1		▲42.9		▲28.6		▲28.6
来期見通し(7～9月期)		▲42.9		▲28.6		▲28.6		▲28.6

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・新型コロナウイルスの影響により生産減少を強いられているが、在庫の販売を行っているため、売上減少の影響は、最小限にとどまった。
- ・コロナウイルスの影響で先行きが見えない中ではあるが、生産と販売の調整を綿密に行い、利益を確保できる体制に持っていきたい。

<経営上の問題点>

- ・需要の停滞、原材料価格の上昇、従業員の確保難が上位を占め、原材料の不足、生産設備の不足・老朽化、製品ニーズの変化への対応を問題としている企業もある。

【建設業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(2)，設備工事業(1)，職別工事業(4)

	完成工事額		採 算		資金繰り		業 況	
31年 4月～6月期		▲14.3		14.3		0.0		0.0
1年 7月～9月期		0.0		▲14.3		14.3		14.3
1年 10月～12月期		57.1		42.9		42.9		57.1
2年 1月～3月期		0.0		14.3		14.3		0.0
2年 4月～6月期		▲57.1		▲42.9		▲14.3		▲42.9
来期見通し(7～9月期)		▲57.1		▲28.6		▲14.3		▲57.1

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・4月に入り、需要が少なくなる時期に、コロナウイルスの影響で、先行きが見通せない状況となってきた。また、オリンピックや国体の延期等も、今後どのような影響があるか計り知れない。

<経営上の問題点>

- ・官公需要の停滞、熟練技術者の確保難が上位を占め、取引条件の悪化、従業員の確保難、人件費の増加、下請け価格の上昇を問題としている企業もある。

【小売業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(4)，衣服(1)，各種商品(1)，石油(1)，その他(1)

	売上額		採 算		資金繰り		業 況	
31年 4月～6月期		▲37.5		▲12.5		▲12.5		▲25.0
1年 7月～9月期		▲50.0		▲37.5		▲12.5		▲37.5
1年 10月～12月期		▲62.5		▲50.0		▲25.0		▲50.0
2年 1月～3月期		▲50.0		▲50.0		▲25.0		▲50.0
2年 4月～6月期		▲100.0		▲100.0		▲75.0		▲100.0
来期見通し(7～9月期)		▲100.0		▲100.0		▲87.5		▲100.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

























- ・コロナウイルスの影響で、需要が停滞し、食品や生活必需品しか動かない状況が続いている。
- ・大型店舗、同業他者の進出により厳しい経営環境にあると感じる。自社の強みを再確認し、地域に無くしてはならない店づくりを実践していきたい。

<経営上の問題点>

- ・大型店・中型店の進出による競争の激化を問題点として企業が多い。また購買力の他地域への流出、販売単価の低下・上昇難、仕入単価の上昇、消費者ニーズの変化への対応が上位を占め、同業者の進出、人件費以外の経費の増加、店舗の狭隘・老朽化、需要の停滞を問題としている企業もある。

【サービス業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：洗濯業(2)・理美容業(3)、飲食店 (2)、その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値	天気アイコン	数値
31年 4月～6月期		▲12.5		▲25.0		0.0		▲12.5
1年 7月～9月期		▲12.5		▲12.5		0.0		▲12.5
1年 10月～12月期		12.5		0.0		0.0		0.0
2年 1月～3月期		0.0		0.0		0.0		0.0
2年 4月～6月期		▲87.5		▲62.5		▲50.0		▲62.5
来期見通し(7～9月期)		▲75.0		▲75.0		▲62.5		▲75.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・コロナウイルスの影響で、飲食店等を中心に休業を余儀なくされ、まったく売り上げの立たない事業者も存在する。また、テイクアウトや出前サービス等も新たに始めたが、以前の水準までは、なかなか戻らない状況が続いている。
- ・コロナウイルスの影響で、各事業者とも、経費だけがかさみ、持続化給付金やその他の支援金等で一時的にしのげているが、先行きが見通せない中、廃業等検討している事業者も潜在的に多い状況である。

<経営上の問題点>

- ・従業員の確保難、利用者ニーズの変化への対応、人件費の増加、店舗施設の狭隘・老朽化が上位を占め、新規参入業者の増加、需要の停滞、大業の進出による競争の激化、人件費以外の経費の増加、材料等仕入単価の上昇を問題としている企業もある。

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、厳しい状況にある。すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、サービス消費で大幅な減少が続いているものの、総じて持ち直しつつある。観光は、厳しい状況が続いている。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、増加している。生産は、減少している。

企業部門の動向を短観（6月<鹿児島・宮崎両県集計分>）でみると、景況感は、大幅に悪化した。設備投資は、高水準で推移している。こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は、弱い動きとなっている。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額と乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を下回って推移している。家電販売額は、前年を上回った。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を下回って推移している。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を上回って推移している。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、貸家を中心に前年を下回った。

5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、窯業・土石製品、食料品を中心に前月を下回った。

6. 雇用・所得環境

有効求人倍率（季節調整済）は、低下している。

現金給与総額は、前年を上回って推移している。

常用労働者数は、前年を下回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年比0%程度となっている。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。